

子規顕彰

全国俳句・短歌大会

入賞作品紹介

正岡子規の業績を受け継ぎ、俳句・短歌の普及を図る「第50回子規顕彰全国俳句大会」が9月23日に、「第33回子規顕彰全国短歌大会」が10月25日に子規記念博物館で開催されました。全国俳句大会からは募集句8,650句、当日句390句のうち、第50回を記念した賞（今回のみ設置）および特選54句を、全国短歌大会からは1,692首のうち各特別賞8賞および特選15首を紹介します。（敬称略）

第50回 全国俳句大会

第33回 全国短歌大会

文部科学大臣賞
父と子の校歌の山河風光る
関谷 葉子(松山市)

愛媛県知事賞
熊蟬のこゑに始まる島の弥撒
岡本 典子(松山市)

松山市教育長賞
行く秋や使はぬまに部屋二つ
嶋田 久美子(岐阜県)

松山市教育長賞
不自由を楽しんでるキャンパ
かな 安倍 日出(大分県)

子規記念博物館館長賞
硝子戸を隈なく磨く獺祭忌
小田島 渚(宮城県)

募集句特選
稲畑 汀子選
毛糸編む一本の糸一枚に
池田 純子(岡山県)

愛媛県知事賞
車椅子押しつつ想ふこの子より
一日永く生きてやりたし
吉田 奈津子(西条市)

松山市教育長賞
静かなるパツハの曲を流しつつ
牛が産産送けるのを待つ
北村 純一(神奈川県)

松山市教育長賞
おほどかに穂麦なびける畑遠く
けぶりて驟雨の移りゆくらし
香川 哲三(広島県)

鷹羽 狩行選
箱庭に月をながむる椅子を置く
古賀 勇理央(愛知県)

鷹羽 狩行選
行く秋や使はぬまに部屋二つ
嶋田 久美子(岐阜県)

鷹羽 狩行選
軽々と城を載せゆく日傘かな
古賀 勇理央(愛知県)

鷹羽 狩行選
風鈴を降ろして風を鎮めけり
安倍 日出(大分県)

鷹羽 狩行選
時々目覚めてをりぬ十夜婆
古賀 勇理央(愛知県)

小川 軽舟選
山笑ひ海笑ひ嬰泣いてをり
櫛部 天思(松山市)

小川 軽舟選
父と子の校歌の山河風光る
関谷 葉子(松山市)

現代歌人協会子規記念賞
子規さんも恋したことはあるか
しら折り鶴ふたつ御墓に置きぬ
神野 優津子(新居浜市)

日本歌人クラブ賞
里芋の「伊予美人」とふブラン
下におされ米作次第に減りぬ
山上 みつほ(四国中央市)

短歌研究社賞
溜め息をいっばい吐いてオゾン
層破壊しているのは私です
坂東 典子(徳島県)

星野 高士選
草笛の鳴らぬは戻す草の中
牛頭 満寿子(西予市)

星野 高士選
切り貼りに重くなりたる洪団扇
小田島 美紀子(神奈川県)

星野 高士選
白靴のけふの歩幅の確かなる
佐保 美千子(香川県)

星野 高士選
羽抜鶏羽を気にしてなどをらす
飯尾 博(新居浜市)

井上 弘美選
硝子戸を隈なく磨く獺祭忌
小田島 渚(宮城県)

井上 弘美選
北極星教へて帰す夏休み
岡田 武夫(伊予市)

井上 弘美選
まぶしさのどつと押し寄せ夏暁路
近藤 節子(四国中央市)

井上 弘美選
熊蟬のこゑに始まる島の弥撒
岡本 典子(松山市)

角川「短歌」賞
舌打ちをされて人生終わるなよ
人身事故の車内アナウンス
米谷 茂(大阪府)

現代短歌社賞
ナホトカの波静かなる月の夜雲
間にわれを呼ぶ母の影
鈴木 七郎(大阪府)

特選
秋葉 四郎選
静かなるパツハの曲を流しつつ
牛が産産送けるのを待つ
北村 純一(神奈川県)

有光 令子選
映る火を水の流して虫送
中村 仁(香川県)

有光 令子選
空蟬の金剛力の爪の先
岡田 真利子(広島県)

有光 令子選
紫陽花のむらさき濃かり清子逝く
佐々木 真理(松山市)

有光 令子選
疲れ鶴の喝采にまた水潜る
丹下 綾子(松山市)

有光 令子選
黒潮のひびく一村幟立つ
渦岡 くみ子(松山市)

有光 令子選
海風を孕み夏服らしくなる
白根 純子(香川県)

有光 令子選
赤とんぼ兄は還らず兵のまま
中森 鶴子(高知県)

当日句特選
稲畑 汀子選
年寄りに椅子は嬉しき敬老日
野中 敏子(東温市)

当日句特選
一粒の露も零さぬ静寂かな
永森 ケイ子(香川県)

当日句特選
はじまりは一粒の種秋高し
森川 秀夫(京都府)

永田 和宏選
日曜のナースセンター人影なく
開かれしまのパソコン灯る
橋本 真美(東京都)

永田 和宏選
舌打ちをされて人生終わるなよ
人身事故の車内アナウンス
米谷 茂(大阪府)

永田 和宏選
溜め息をいっばい吐いてオゾン
層破壊しているのは私です
坂東 典子(徳島県)

永田 和宏選
里芋の「伊予美人」とふブラン
下におされ米作次第に減りぬ
山上 みつほ(四国中央市)

永田 和宏選
海鯨を釣りに捌けはゆくりなく
卵胎生の稚魚あまた出づ
前野 清子(千葉県)

有光 令子選
大空を使ひ切つたるいわし雲
大西 素之(松山市)

有光 令子選
田に棲める命を思ふ落し水
原 道子(香川県)

有光 令子選
一揆の血継いでひと夜を踊りけり
渦岡 くみ子(松山市)

高岡 周子選
鈍行は道草多し曼珠沙華
真鍋 マキ子(四国中央市)

高岡 周子選
叱られし兄呼びに行く大夏木
福田 俊江(松山市)

高岡 周子選
手を入れてかるく泳がす新豆腐
松本 麗子(松山市)

江崎 紀和子選
石に置く目ざしの白し獺祭忌
杉山 望(松山市)

坂井 修一選
子規さんも恋したことはあるか
しら折り鶴ふたつ御墓に置きぬ
神野 優津子(新居浜市)

坂井 修一選
ナホトカの波静かなる月の夜雲
間にわれを呼ぶ母の影
鈴木 七郎(大阪府)

倉林 美千子選
夕映えの彼方に家路あるごとく
陸橋わたる人の流れは
小畑 定弘(徳島県)

福谷 俊子選
兄の声弟のこゑ墓洗ふ
吉岡 君子(松山市)

福谷 俊子選
送り火を焚きし長子の大きな背
西川 慶子(松山市)

福谷 俊子選
一揆の血継いでひと夜を踊りけり
渦岡 くみ子(松山市)

横田 青天子選
芋虫の重心ずらしつつ進む
伴 明子(岡山県)

横田 青天子選
秋風のあつまつてくる象の耳
岡本 典子(松山市)

渡邊 孤鷺選
一灯で足りるふたりの夜長かな
三好 美美枝(松山市)

渡邊 孤鷺選
一揆の血継いでひと夜を踊りけり
渦岡 くみ子(松山市)

木下 節子選
小鳥来てをり余生てふ玉手箱
佐々木 真理(松山市)

木下 節子選
来し方を語らぬ母や草の花
井上 由美子(松山市)

木下 節子選
獺祭忌図書館を出て図書館へ
伊藤 久枝(高知県)

木下 節子選
茸飯炊きて一人を悟りけり
久保田 牡丹(松山市)

木下 節子選
秋茜夕日に羽の触るる音
前田 啓子(松山市)

尾形 冴子選
身の片方火色に染めて草を焼く
農夫は夕べの闇を負ひつつ
藤井 重行(山口県)

尾形 冴子選
それぞれの電子辞書を手荷物に
シヨートステイへ父母を見送る
熊田 裕子(砥部町)

尾形 冴子選
車椅子押しつつ想ふこの子より
一日永く生きてやりたし
吉田 奈津子(西条市)

尾形 冴子選
おほどかに穂麦なびける畑遠く
けぶりて驟雨の移りゆくらし
香川 哲三(広島県)

尾形 冴子選
山峡に点るはパプアの村の灯か
恋しもいくさの跡を弔ひ来て
白石 すみ子(松山市)